

静岡県立中央図書館との連携
幼児指導絵本『あそび』と静岡の絵本文化

人文社会科学部客員教授 平野雅彦

アドバイス 人文社会科学部教授 今野喜和人

担当教員 自己紹介 平野雅彦

担当授業 情報意匠論

大学の知（学問・人材）を地域と連携させることで、互いの問題・課題を同時に解決しながら、そこで得た方法を使うことで大学という学びの場をより上質なものと発展させていくことを目指す。



企業や組織が現在抱えている問題解決に取り組む



2004年
オリジナル ポスター

型があるから、型破り
型がなければ、かたなし



テレビ局 × 静岡市 × 静岡大学



2011/05/25 静岡新聞 朝刊

島田市博物館 × 情報意匠論



熱海市 × 情報意匠論
まちづくり「オンたま」とのコラボ



静岡大学創立60周年記念事業
「静大フェスタ」パネルディスカッション出演 2008年



小鹿商店街 × 情報意匠論
商店街の活性化と
有事の際の助け合い 2012.4



言語文化学科の先輩が
後輩のために贈る「履修の手引き」



波及効果

SPAC(静岡県舞台芸術センター)とのコラボで
静岡の埋もれている物語を掘り起こしてリーディングカフェを実施



波及効果

SPAC(静岡県舞台芸術センター)とのコラボで
静岡の埋もれている物語を掘り起こしてリーディングカフェを実施

調べる・考える・解決する
静岡県立中央図書館
Shizuoka Prefectural Central Library



元履修生が授業をおこなってくれる
仕組みをつくる



NHK全国放送
「ここはふるさと旅するラジオ」に出演
「情報意匠論」の試みを紹介
 2010.11.20

【受賞歴等】

2006年 静岡新聞広告賞グランプリ受賞 2006年
 静岡新聞広告賞読者が撰ぶ広告賞銅賞受賞 2006年
 度 静岡大学学長表彰 2007年 静岡新聞広告賞奨励
 賞受賞 2008年度 静岡大学学長表彰 2008年 第28
 回日本新聞協会・
 新聞広告賞広告主部門優秀賞 2008年
 静岡新聞広告賞奨励賞受賞
 2010年 静岡大学創立60周年記念
 「静大フェスタ」シンポジウム参加 他

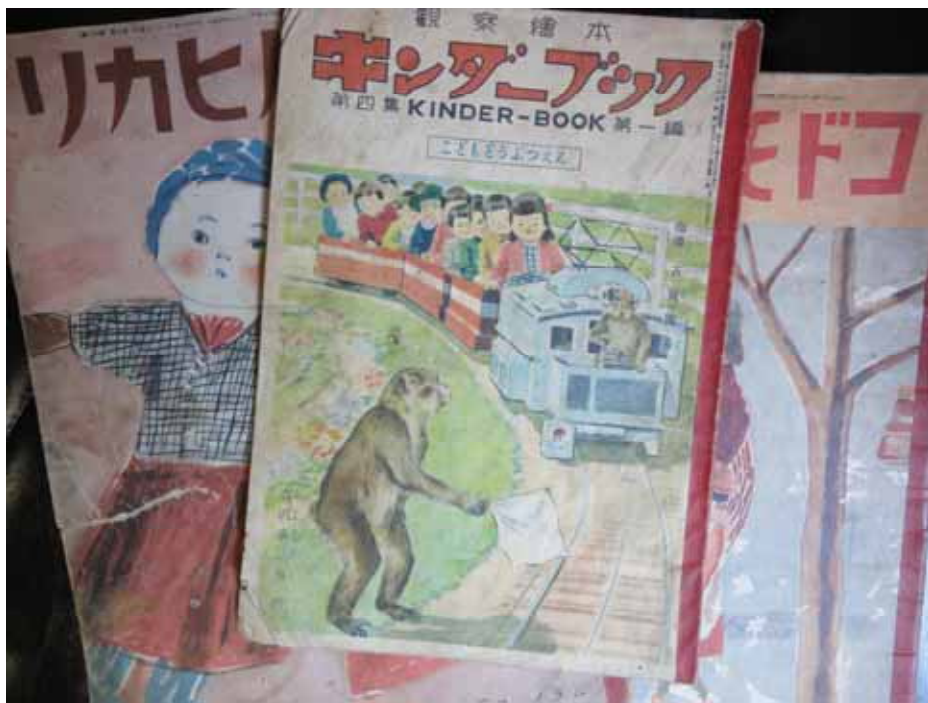
2012年度 地域連携応援プロジェクト

静岡県立中央図書館 × 静大・情報意匠論

調べる・考える・解決する
静岡県立中央図書館
 Shizuoka Prefectural Central Library

ある日、
 研究室で……





『あそび』の背景

幼児指導絵本『あそび』とは、社会福祉法人 静岡事業福祉協会(静岡市葵区上足洗)が、主に東海地区、甲信越の一部を販売エリアとして編集発行していた幼児教育絵本(昭和20年代~50年代発行 現在廃刊)。

このわずか20ページ足らずの絵本には、早くから、当時大活躍していた絵本作家や画家、作曲家、詩人らが多数執筆していた。

ところが、昭和50年代に入り競合他社が乱立するなかで、廃刊。ローカル誌や発行部数等の問題もあり、まったく研究・考察されていないという現状にある。

情報意匠論の中で学生の相談



調べる・考える・解決する
静岡県立中央図書館
Shizuoka Prefectural Central Library



問題発生

- ・研究を深めて行くにはそれなりに予算がかかる。
- ・立場上、予算がない。獲得も難しい。
- ・プロジェクトが長引くと学生たちのトーンが下がる。

朗報

「地域連携応援プロジェクト」を知る



学生の士気が再び高まる

自分たちだけで成果を出そうと思えば
何とかできる可能性もある……

だが……

ポイント あえて、広げる 協力を仰ぐ

単独でやれば、結局、単独でやることしかできない

協力を仰ぐことで可能になることがある

アイデア 広報 運営 共同研究 予算 他



協力依頼

元『あそび』編集長 静岡県立中央図書館
静岡図書館友の会 千代田保育園
静岡事業福祉協会 関係美術館 等

幼児指導絵本『あそび』(以下『あそび』)地域連携プロジェクトにおける 3つの学術的・社会的意義

1) 研究価値としての『あそび』

武井武雄、いわさきちひろ、赤羽末吉、林義雄、黒崎義介、長新太、馬場のぼる、おおば比呂司、朝倉摂、服部公一ら多数の豪華執筆陣が筆を奮っていた『あそび』。個別の作家ごとには作品集などが出版され、評価も確立されているものの、時代や絵本史に位置づけられた『あそび』全体の役割、存在意義というものはまったく研究が進んでいないのが現状である。

2) 地域連携という視点

連携先の静岡県立中央図書館は、館内に研究機関「子ども図書研究室」を有し、児童書の収集・研究において、多くの成果を出している。今回の発表会では、ただ会場を借りるのではなく、未だ詳らかになっていない『あそび』を通じ、外部の専門研究機関と学生が一体となって研究を進めて行くことの意義は極めて重要で、まさにそこには「地域連携」としての根本的な姿がある。

3) 今回のタイミングというチャンス

『あそび』に関する研究成果はこれまでは皆無に等しい。歴代の編集長も存命わずかとなってしまった現在、今このチャンスにしか、聞き取り等が残せない状況にある。また今回の調査で発見された、歴史的、美術的価値の高い約50枚強の原画(2013年1月現在)も、保存状態が悪く、未だ公の評価がされないまま、千代田保育園(静岡市葵区上足洗)の体育館や倉庫にしまわれたままになっている。

静岡県立中央図書館との連携で期待されること

- 1) 静岡県立中央図書館との共同研究による新たな視点の発見。
- 2) 共同研究発表による全国の公共図書館を中心とした発信が可能となる。
- 3) 絵本学会等での新たな発表の場が期待できる。
- 4) 国立国会図書館や全国の公共図書館とのネットワークが容易となる。
- 5) 展示、講演(パネルディスカッション)、ワークショップ等による今回の発表の場は、主に静岡県民へ向けた静岡大学の研究を通じた認知度のアップにつながる。
- 6) 波及効果として、本研究の発表により、同分野の研究が深まる。



← 告知チラシ A4表面

【広告媒体】

- ・大型タペストリー × 1枚
- ・チラシ × 2500枚
- ・ポスター(カラーコピー) × 約20枚
- ・Twitter (メンバー各自が発信)
- ・Blog (メンバー各自が発信)
- ・Facebook (メンバー各自が発信)
- ・協力者による広報
 - 図書館→全県図書館へ広報
 - 図書館友の会→会員へ広報
 - 千代田保育園→保護者へ広報
 - 静岡事業福祉協会→会員へ
 - 新聞社、テレビ、ラジオ等

調べる・考える・解決する
静岡県立中央図書館
 Shizuoka Prefectural Central Library

開催場所：静岡県立中央図書館
 開催日：2012.9.3～16



調べる・考える・解決する
静岡県立中央図書館
 Shizuoka Prefectural Central Library



調べる・考える・解決する
静岡県立中央図書館
 Shizuoka Prefectural Central Library



当時の『あそび』を使っでの読みきかせ。
 元編集長や静岡図書館友の会の呼びかけ
 読みきかせを依頼、同時に理解者を増やす。

調べる・考える・解決する
静岡県立中央図書館
 Shizuoka Prefectural Central Library



『あそび』の付録を再現して、今の子どもたちの反応を見る

調べる・考える・解決する
静岡県立中央図書館
 Shizuoka Prefectural Central Library

2012/08/26 静岡新聞 朝刊

調べる・考える・解決する
静岡県立中央図書館
 Shizuoka Prefectural Central Library



調べる・考える・解決する
静岡県立中央図書館
 Shizuoka Prefectural Central Library

今回の研究発表会で約20人の元編集者が見つかり、貴重な調査ができた



2012/09/13 静岡新聞 朝刊

調べる・考える・解決する
静岡県立中央図書館
 Shizuoka Prefectural Central Library



2012/08/26 静岡新聞 朝刊

調べる・考える・解決する
静岡県立中央図書館
 Shizuoka Prefectural Central Library



静岡新聞 朝刊 2012/09/04

調べる・考える・解決する
静岡県立中央図書館
 Shizuoka Prefectural Central Library



2012/09/25 静岡新聞 朝刊

調べる・考える・解決する
静岡県立中央図書館
 Shizuoka Prefectural Central Library

【成果】

- 1) 本研究発表展示会を行うことで、20人強の元編集関係者と連絡が取れ、当時の様子を取材することができた。
 また、貴重な原画や『あそび』の寄贈も受けた。
- 2) 静岡県立中央図書館と『あそび』における
共同研究チームを立ち上げようという動きが出ている。
- 3) 学生のうち一人が、**卒論のテーマ**として
 『あそび』の研究を深めていくこととなった。
- 4) この先の「連携」を考えるきっかけづくりとなる。

今後の展望

更にこの連携プロジェクトを
 広げて行くためには
プロジェクト同士の掛け算が必要

実は……

静岡県立中央図書館 ×
静岡県立美術館 ×
静岡大学

すでに行っている静岡県立美術館とのプロジェクト

静岡県立美術館 × 静岡大学・情報意匠論

展覧会「日本油彩画二〇〇年」との連携

開催日：2012年6月9日～7月22日

・概略

「日本油彩画二〇〇年」の実施に向け、静岡県立美術館との連携を進めるための学生チームKenBee(けんびー)が2012年4月に発足した。

1. 展覧会「日本油彩画二〇〇年」の展示等取材し、blogにて公開した。
2. ギャラリー・トーク 2012年7月7日(日)実施
本展覧会約100点の出品作から、「わたしのお気に入りの一点」を選び、その作品や画家、テーマや時代などの調査・研究し、一般来館者に向けての、ギャラリー・トークを実施した。
3. 本展覧会における一連の取り組みをblogにして発信、成果をblogにて公開した。



素敵な美術作品やお気に入りの一点を探して飛び回る学生の姿をミツバチに喩えました。





釘持みなみ(人文社会科学部 言語文化学科2年) →
解説作品:川村清雄「海底に遺る日清勇士の觸髅」



埴原綾(人文社会科学部 言語文化学科 2年) →
解説作品:鹿子木孟郎「日本髪」の裸婦」





2012年7月8日(日)静岡新聞 朝刊



2年の取せり奈さんは、近代洋画の草分けの一人で、静岡にも住んでいた川村清雄の油彩画「巨岩海浜図」を紹介した。作品から読み取れる作者の思いなどを15分間で来館者に説明。「説明書きにはない作品の面白さを伝えることができたと思う」と笑顔を覗かせた。同展は日本を代表する洋画家の作品を年代別に展示している。22日まで、開館は午前10時から午後5時半。



アートミュージアムラボ 財団法人地域創造主催
2013年3月6, 7, 8日の3日間開催

【アートミュージアムラボに参加】

全国の若手学芸員が情報交換をする場

研修プログラム ～テーマ「連携」

◎第1日(2013年3月6日) ・ゼミ1～4

◎第2日(3月7日) ・概要説明/事業体験プログラム

- ・パネルディスカッション「美術と地域とのコラボレーションの可能性」
- ・グループディスカッション

◎第3日(3月8日)

- ・ゼミ6
- ・ゼミ7「大学との連携・コンソーシアムの可能性」(平野雅彦+学生)
- ・フリーディスカッション「文化政策と美術館をつなぐもの」(進行: 佐々木亨、平野雅彦、泰井良)

『あそび』をテーマに三つの組織が **連携** できないか。

静岡県立中央図書館 × 静岡県立美術館 × 静岡大学

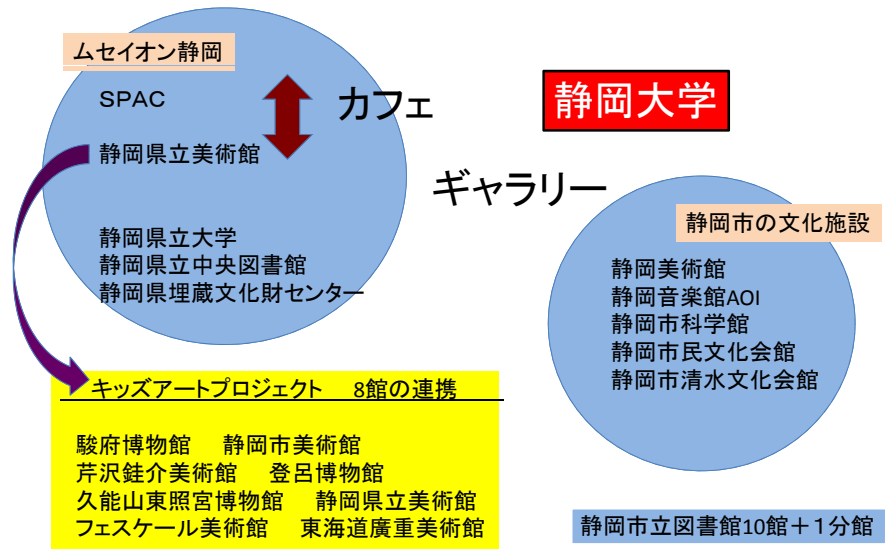
↓
構想

静岡県立中央図書館 + 静大附属図書館に『あそび』を展示して、静岡県立美術館の原画を展示する

↓
研究会の発足

↓
そもそも、美術館と図書館は合体する組織であっていい

今、静岡県では、文化施設の動きがおもしろ



「連携」による市民の誇りの萌芽と創造

